

リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟市立白新中学校

【取組内容①】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるチャット・スプレッドシートの活用

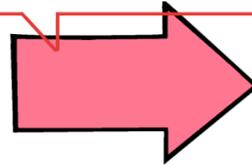
P
L
A
N

【before】

- ①生徒を主語にした学習活動をしたが、学習者の思考がすぐに把握できない。
- ②他者との関わり合いの中で深い学びを実現させたいが、特定の生徒のみ発言し授業が進んでしまう。

手立て

チャットを活用し、アウトプットする機会を増やす

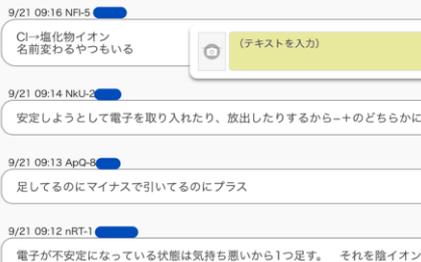


【after目指す姿】

- 自分の考えを文章や図で表現させる
- ①瞬時に考えを把握することができる。
 - ②すぐに全体共有できるツールにより、すべての生徒の考えをもとに授業を進めていく。

【手立てのGOOD】

- 他者の意見を聞く機会が増えた
- 表現することに慣れてきた ●他者の意見をすぐ参考にできた



生徒の考えたことをつぶやかせ、すぐに共有できる

【手立てのMORE】

チャットを使う場面を教師が指示を出して活用させた。これにより生徒は学ぶ利便性を感じている。一方で、生徒の使いたい時に使えない学習環境になってしまった。生徒が活用したいタイミングで活用できるようにしていく必要がある。

【手立てのNEXT】

他者との意見交流が必要な解決課題を提示し、解決方法を生徒に考えさせ、チャットを活用させる学習活動を組織する。

R
E
S
U
L
T

リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟市立白新中学校

【取組内容①】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるチャット・スプレッドシートの活用

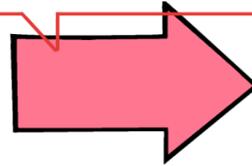
P
L
A
N

【before】

- ①複線型の授業を構成したいが、生徒の学習の進捗状況がわからない。
- ②学習での困り感があっても、他者に助けを求めようとしない。

手立て

スプレッドシート（共有）で進捗状況を随時更新させる。



【after目指す姿】

- ①スプレッドシートで全ての生徒の学習状況が見える化することで、生徒の進捗状況が把握できる。
- ②学習する際に、協働的に学びきっかけになり、他者にアドバイスをもらったり、助けに行く姿になる。



【手立てのGOOD】

生徒の進捗状況が一目でわかり、教師が支援にいくことができた。
 ・また、課題を解けない生徒が、進捗が速い生徒に意見を聞きに行くことの一助となった。
 ・瞬時に自分の考えを他者と共有でき、交流活動がより効率よくできた。

学習を終えた人がHELPを出している人に教えに行く様子

生徒の取り組んで切る状況を、リアルタイムで把握できる。

【手立てのMORE】

スプレッドシートでは、文章を共有する際に、データ通信量が大きくタイムラグが起こってしまうので、プルダウンを作って項目を選択させるためであれば使い勝手が良いが、図や文章の共有は異なる方法が必要である。

【手立てのNEXT】

スプレッドシートでできることとできないことの精査が必要である。図や文章の共有はチャットWebやジャムボード等で行うのが望ましいと考えられ、今後追究していく。

R
E
S
U
L
T



リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟市立白新中学校

【取組内容④】

職員会議や研修における効率化

PLAN

【before】

- ①職員会議の資料を人数分印刷するのが大変
- ②机上が紙で溢れている
- ③学校の予定に様々な修正が入るが、その周知が徹底しない。

手立て📁

- ①Googleドライブで会議資料を共有
- ②クラスルームでお知らせ等の情報共有
- ③Googleカレンダーで、時程共有

【after目指す姿】

- ①ペーパーレスになり、印刷の手間や紙やインク代などの経費削減に繋がる
- ②クラスルームで情報を一元化することで、必要な情報にいつでも手軽にアクセスできる。
- ③最新の情報に全員がすぐにアクセスできる。



【手立てのGOOD】

- 紙やインク代の削減
- 印刷やプリント配布の手間がなくなった。
- 紙だとファイリングしなければいけなかった情報を、クラスルームであれば時系列で確認することができる。
- カレンダー上に、行事の要項もアップロードでき、いつでも予定や要項を確認できる。



Googleカレンダーでいつでも時程や情報を確認することができる。

【手立てのMORE】

現在使用しているOsがiOsであり、多くの教員が普段活用しているWordやExcelデータとの互換性が悪く、PDFに変換し、それをアップロードする必要がある。使い慣れない人にとっては難しい作業であり、職員間の活用スキルには差があり、一部の職員に負担がいつてしまう。

【手立てのNEXT】

iPadで便りを作成する技術やカレンダーやドライブへのアップロードをどの職員もできるようにスキルアップする研修を実施していく。

RESULT



リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟市立白新中学校

【取組内容⑤】

院内学級（病弱特別支援）との連携におけるICT活用

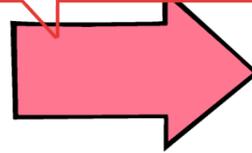
P
L
A
N

【before】

- ①生徒の体調によっては臨床で授業ができない。
- ②学校で感染症が流行すると、授業者が病院に入れない。
- ③一時退院の際、自宅訪問してまでは授業ができない。
- ④急な予定変更が伝わりにくい。

手立て

学習支援ソフトやウェブ会議ソフトでのオンライン授業を活用する。



【after目指す姿】

- ・学習支援ソフトやウェブ会議ソフトを活用し、より確実に学習機会が保障できる。
- ・急な予定変更を病院に伝えるとともに、本人にも直接伝えることができる。

【手立てのGOOD】

院内学級では、急遽具合が悪くなり学習できなくなったり、授業者の学校で学級閉鎖が起ると、授業ができなくなる。そこでウェブ会議ソフトや学習支援ソフトを活用することで、学習の機会を保障することができる。また生徒と原籍校とのつながりを保つことや、設置校と提携校の情報共有をすることができた。



病室のベッドでウェブ会議ソフトでの学習ができる

【手立てのMORE】

学習の機会は保障することができたので、今後は生徒と原籍校との関わりを密にし、退院した後、学校復帰することを視野に入れた支援が必要である。

【手立てのNEXT】

- ・ウェブ会議ソフトによる原籍校の先生との面談（授業、委員会、部活動、校内の様子、進路相談）
- ・学校行事を録画してもらって視聴
- ・学習支援ソフトを使って授業の進度確認、制作物の提出
- ・原籍校と設置校の担任同士のメールによる情報交換

R
E
S
U
L
T

【取組内容⑤】

難聴特別支援学級生徒の情報保障における音声認識し文字起こしをするソフトの活用

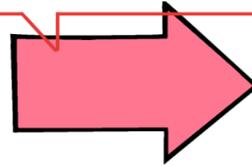
PLAN

【before】

- ①難聴生徒はマイクを通した音声や、反響する場所での音声聞きづらい。
- ②音声聞き取りづらいので、これまで教師が手入力で文字化し、示していた。

手立て

- 音声認識し文字お越しをするソフトで話を音声認識し、文字を起こし視覚的に支援する。



【after目指す姿】

- ①内容が把握でき、確実に情報が伝わる。
- ②音声を文字に変換できるので、手入力の必要がない。



【手立てのGOOD】

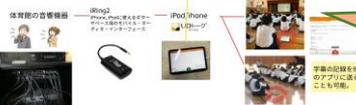
体育館のマイクと音声認識し文字起こしをするソフトを繋いで、視覚的な補助をすることができた。
他にも難聴教室で授業の際、iPadと補聴器や人工内耳との連携が可能であり、読み上げ情報が直で補聴器に入り、動画・音声などを聞くことができた。

難聴特別支援学級生徒の情報保障

体育館に響くマイクの音は聞き取りにくい。補聴器や人工内耳を付けていたって！いるからこそ！

音声認識し文字起こしをするソフト

でマイクの音声を字幕表示



音声認識し文字起こしをするソフトを体育館のマイクに接続して使用する

【手立てのMORE】

- 一人の発話を聞くことは可能になったが、グループ対話をする際に、周囲の騒音があると聞き取りが難しい。
- 設定するのに手間や知識が必要になる。また高価な機材がさまざま必要。



【手立てのNEXT】

グループ対話における聞き取り支援の方法を検討する。音声認識し文字起こしをするソフトをマイクと連携させる支援を気軽にできる方法を探す。

RESULT

